

復活された主イエス・キリストとの出会いに憧れて．．．

デソーザ・ジョンソン 神父

友人の皆さん、ご復活おめでとうございます。

イエス・キリストの復活はキリスト信者の信仰にとって最も大事なことです。もし、キリストの復活がなかったら、信者である私たちの信仰は、まるで現実的でないもの、夢物語で終わってしまいます。「人は必ず死ぬ」これは、誰もが知る事実です。ところが、聖書はイエス・キリストは死者の中から復活され、今も限りなく生きておられると告げています。もし、キリストの復活が事実でなければ、キリストの復活祭を祝っているわたしたちは、常識はずれの、意味のない人間ということになってしまいます。しかし、キリストの復活が事実であれば、これ以上に素晴らしいことはありません。なぜなら、人の一生は「死」で終わるのでなく、「死」のかなたに永遠の命が待っているからです。イエス・キリストは、どんなに権力のある人も、財産のある人も、頭の良い人も、すぐれた人格の持ち主も、誰ひとり打ち勝つことができなかつた「死」に打ち勝ってくださいました。そして、ご自分を信じる者たちに永遠の命を与え、死に打ち勝つ者としてくださるのです。

イエス・キリストの復活の後、弟子たちは、エルサレムの真ん中で「神はこのイエスを復活させられたのです。私たちは皆、その人の証人です」（使徒言行録2章32節）と言って伝道しました。それはイエス様を十字架に追いやったユダヤの指導者たちにとって迷惑なことでした。そのとき、ユダヤの指導者たちはきっとイエスの遺体を墓から運んで、「イエスは復活などしていない。遺体がここにあるではないか」と言いたかつたのでしょう。しかし、そうすることは出来ませんでした。イエス様はまことに復活されたからです。



イエス・キリストの復活のもう一つの証拠は「弟子たちの回心」です。イエスが十字架につけられたとき、弟子たちは自分たちも同じようにされるのではないかと恐れ、逃げ隠れしていました。ところが、幾日も経たないうちに、弟子たちは大胆に、確信をもって「イエスは復活されました」と語り出しています。そのために財産を奪われたり、苦しめられたり、命を奪われるようなことがあっても、彼らはひるみませんでした。なぜなら、復活の信仰を持っていたからです。

イエス・キリストの復活は、わずかしか経たないうちに、宣べ伝えられています。弟子たちは復活されたイエス・キリストをその目で見、四十日にわたってキリストから教えを受け、キリストが天に昇っていかれるのを見送っています。その時、弟子たちは「あなたがたは…わたしの証人となる」（使徒言行録1章8節）という使命を受けました。「復活の信仰」は復活の事実によって生まれたと言うしか説明が付きません。復活の事実が復活の信仰を生み出し、復活の信仰が弟子たちを変えたのです。この弟子たちの変化は、イエスの直接の弟子たちに限りませんでした。後に弟子になった人たちもまた、イエス・キリストの復活によって変えられていきました。



ある青年がキリスト信者である友人に連れられてはじめて教会に行きました。それは主の復活祭の日で、御ミサの説教はイエス・キリストの復活をまっすぐに語るものでした。彼の友人は、はじめて教会に来て、いきなりキリストの復活の話を聞かされた青年が「もう教会には来ない」と言い出すのではないかと心の中で心配していました。しかし、教会からの帰り道、青年はこう言いました。「ぼくの心は、生きる目的も意味もわからず、無気力で死んだようになっていた。こんなぼくを救ってくださる神は、たとえ死んでも復活するお方でなくてははいけないんだよ。」やがて青年はイエス・キリストを信じました。この青年もまたイエス・キリストの復活を体験を通して信じたのです。

キリストの復活は、歴史の確かな事実です。しかし、それを事実として認めるだけでは、何も変わらないのです。キリストの復活の命と力は、それを体験してこそ、意味があるのです。イエス・キリストを私たちの心に、人生に迎え入れるとき、私たちも、それを体験でき、私たちは変えられます。イエス・キリストは、この復活祭に、私たちにも復活を体験して欲しいと願っておられています。

「イエス・キリストがまことに復活されました。ハレルヤ」